

奄美藻場造成試験(食害魚について)

漁場環境部 研究員 東條智仁

目的：藻場形成の阻害要因となる植食性生物を特定する

方法 ・藻体を囲い網等で保護して伸長させ、撮影開始時に囲い網等を撤去
撮影はインターバルカメラ(Recolo IR7)を設置して実施

・撮影場所及び撮影期間

宇検村(佐念)…平成28年5月19日～6月8日(撮影間隔は5分)

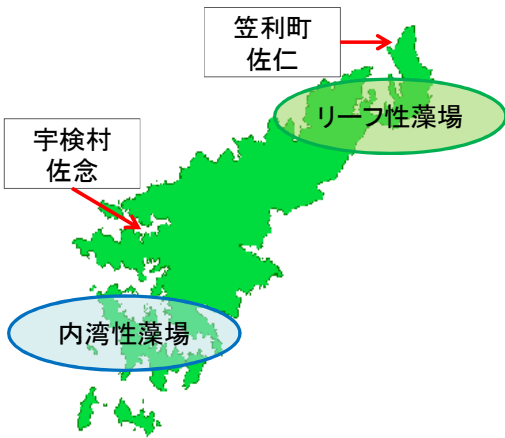
笠利町(佐仁)…平成28年9月2日～9月6日(撮影間隔は1分)

奄美大島の藻場の種類

鹿児島県では環境によって藻場をリーフ性と内湾性に分けて呼んでいる

・内湾性藻場……波の弱い内湾に形成される藻場
底質は人頭大の石が混じる砂地であり、
主に3～4月に成熟して幼胚放出が行われる。
構成種は主にマジリモク。

・リーフ性藻場…リーフ内に形成される藻場
底質はサンゴ由来の岩盤で薄く砂を被っている。
主に7～9月に成熟して幼胚放出が行われる。
構成種はキレバモク、チュラシマモクなど8～10種。

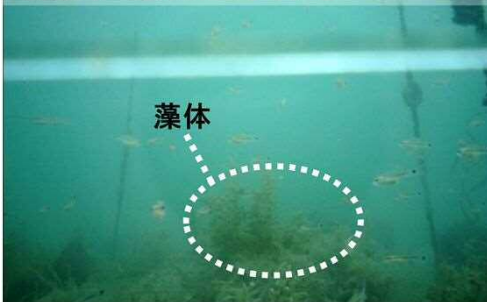


結果

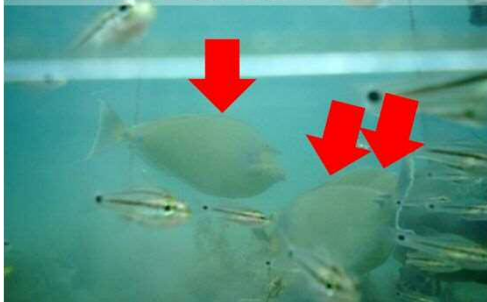
宇検村 佐念 (内湾性藻場)

→藻場ブロックに着生したキレバモクを摂餌するテングハギを確認

囲い網撤去時(14:15頃)
点線内に藻体が生えている



3日目(10:15頃)
テングハギが藻体を摂餌



3日目(15:20頃)
アイゴが現れた(藻体はほとんど無い)



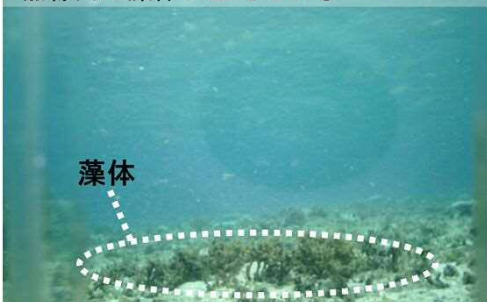
- ・ 囲い網撤去から3日目、テングハギが出現。午前中(6:50～10:40)に藻体のほとんどを摂餌した。
- ・ テングハギが去った後、アイゴ科が残った藻体を摂餌するような様子を確認した。
- ・ モンガラカワハギ科(ムサメガラ等)が頻繁に現れたが、藻体を摂餌する様子はみられなかった。

結果

笠利町 佐仁 (リーフ性藻場)

→天然に繁茂しているキレバモクを摂餌するテングハギを確認

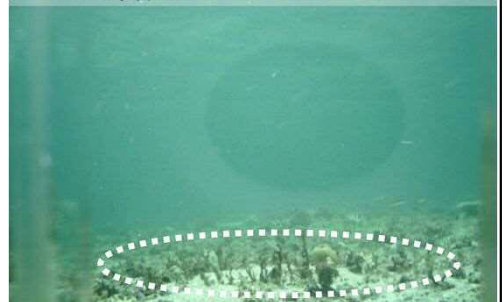
囲い網撤去時(9:40頃)
点線内に藻体が生えている



撤去当日(10:20頃)
テングハギが藻体を摂餌



撤去当日(17:30頃)
1日で藻体のほとんどが無くなった



- ・ 囲い網を撤去した当日、テングハギが出現。1時間(10:20～11:20)ほど摂餌した。
- ・ テングハギは午後も姿を現し、2時間(15:20～17:20)ほどで残っていた藻体のほとんどを摂餌した。
- ・ モンガラカワハギ科(ムサメガラ等)が頻繁に現れたが、藻体を摂餌する様子はみられなかった。

奄美海域において、
内湾性藻場及びリーフ性藻場ともテングハギが藻場形成阻害要因のひとつと考えられた